



株式会社島津製作所(東証プライム市場：証券コード7701)

2023年3月期 第1四半期決算説明会

取締役 専務執行役員 CFO 渡邊明 | 2022年8月5日

01 決算概要

業績サマリー

売上高は過去最高を更新
営業利益は減益

- ・売上高は2期連続過去最高を更新（為替影響含む）
- ・部品・部材の価格高騰などにより減益

計測、医用、産業は
過去最高の売上高

- ・計測：国内コロナ関連製品の減収を海外が補い過去最高。重点機種のLC、MSは欧州、その他のアジアのヘルスケア分野で伸長。アフターマーケット事業も拡大
- ・医用：X線TV、血管撮影システムが回復。放射線治療用動体追跡システムが好調
- ・産業：半導体製造装置向けTMP、中国市場向けガラスウインドが好調

中国ロックダウンの影響

- ・4月からの2か月間は、上海を中心としたロックダウンの影響を受け、物流の混乱、据付延期、行動制限に加え、生産にも一部影響が生じた

受注高も
過去最高を更新

- ・第1四半期受注高は過去最高を更新。前年同期比+10%台後半（為替影響含む）

注：LC：液体クロマトグラフ、MS：質量分析システム、TMP：ターボ分子ポンプ

損益計算書

売上高は過去最高。営業利益は部品・部材の価格高騰などにより減益
為替差益の増加などにより、経常利益は5%減、当期純利益は横ばい

売上高
前年同期比：+43億円/ +5%
986億円

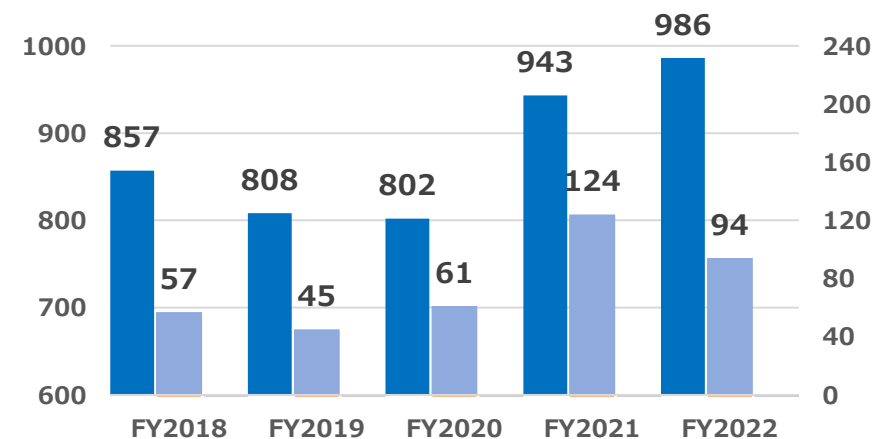
営業利益
前年同期比：▲30億円/ ▲24%
94億円

営業利益率
前年同期比：▲3.6pt
9.6%

当期純利益
前年同期比：▲0億円/ ▲0%
87億円

	単位：億円	第1四半期(4月-6月)			前年同期比	
		FY2020	FY2021	FY2022	増減額	増減率
業績	売上高	802	943	986	+43	+5%
	営業利益	61	124	94	▲30	▲24%
	営業利益率	7.6%	13.2%	9.6%	▲3.6pt	
	経常利益	62	127	121	▲6	▲5%
	親会社株主に帰属する当期純利益	42	87	87	▲0	▲0%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	107.67	109.53	129.63	+20.10	+18%
	ユーロ(円)	118.50	132.00	138.17	+6.17	+5%
	研究開発費	34	36	42	+6	
	設備投資額	26	21	58	+37	

売上高・営業利益推移(5年間) 単位：億円 ■売上高 ■営業利益



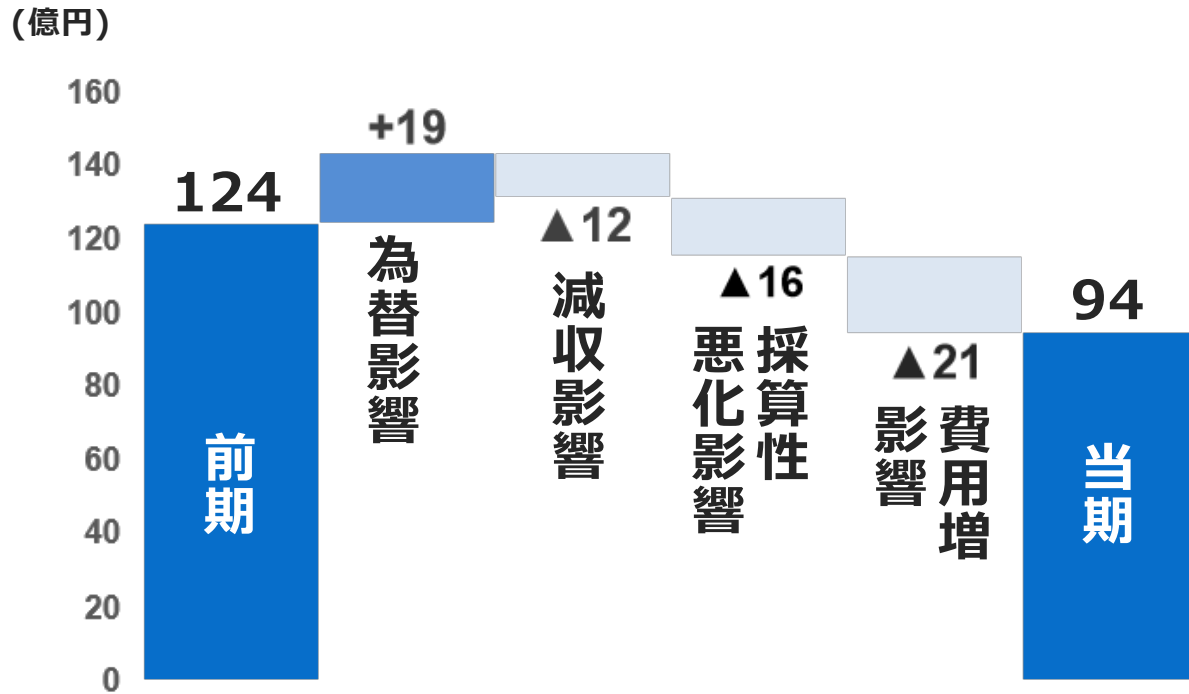
減価償却費

42億円

為替影響額

売上高：74億円 営業利益：19億円
海外在庫増に対する為替影響がマイナスに作用

営業利益増減要因



為替
+19億円

- 円が対米ドル・対ユーロで大きく円安
- 海外在庫増への為替影響 (マイナスに作用)

減収
▲12億円

- 中国ロックダウン影響
- 部品・部材不足による生産遅延

採算性悪化
▲16億円

- 部品・部材価格の高騰
- セグメントミックスの悪化

費用増
▲21億円

- 人的投資の増加
- 物流費の高騰
- 研究開発費の増加

セグメント別損益

計測機器：増収減益

売上高：+5億円/+1%
 営業利益：▲26億円/▲24%
 営業利益率：13.5%

医用機器：増収減益

売上高：+19億円/+13%
 営業利益：▲6億円/▲72%
 営業利益率：1.5%

産業機器：増収減益

売上高：+17億円/+13%
 営業利益：▲1億円/▲5%
 営業利益率：8.9%

航空機器：増収増益

売上高：+6億円/+15%
 営業利益：+5億円/—
 営業利益率：2.4%

- ・中国ロックダウンの影響を受けたものの、LCの売上高は過去最高更新
- ・コロナ関連製品の減少
- ・部品・部材高騰、販管費増

- ・X線TV、血管撮影システム、放射線治療用動体追跡システム等が増加
- ・プロダクトミックスの悪化
- ・部品・部材高騰、販管費増

- ・TMPが好調に推移
- ・油圧機器が減少
- ・部品・部材高騰、販管費増

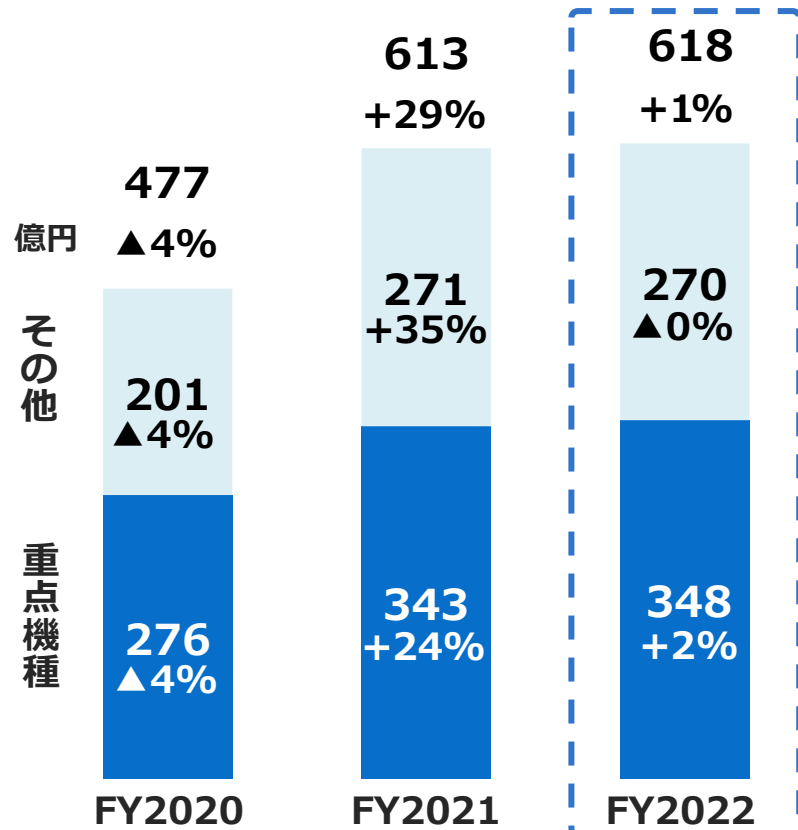
- ・民間航空機器向け需要が回復
- ・前年同期の損失から黒字へ転換

単位 億円	売上高						営業利益						営業利益率			
	FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比			FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比			FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比 増減
				増減額	増減率	増減率 (除為替影響)				増減額	増減率	増減率 (除為替影響)				
計測機器	477	613	618	+5	+1%	▲8%	53	110	84	▲26	▲24%	▲34%	11.1%	17.9%	13.5%	▲4.3pt
医用機器	131	145	164	+19	+13%	+7%	2	9	2	▲6	▲72%	▲93%	1.4%	6.1%	1.5%	▲4.6pt
産業機器	104	130	147	+17	+13%	+5%	8	14	13	▲1	▲5%	▲49%	7.4%	10.6%	8.9%	▲1.7pt
航空機器	82	41	48	+6	+15%	+7%	1	▲4	1	+5	-	-	1.6%	▲8.7%	2.4%	+11.1pt
その他	9	14	10	▲4	▲29%	▲29%	2	▲0	▲1	▲0	-	-	15.3%	▲1.8%	▲3.4%	▲1.6pt
調整額	-	-	-	-	-	-	▲5	▲4	▲5	-	-	-	-	-	-	-
合計	802	943	986	+43	+5%	▲3%	61	124	94	▲30	▲24%	▲39%	7.6%	13.2%	9.6%	▲3.6pt

02 1Q決算セグメント別業績

計測機器/機種別売上高・アフターマーケット比率

1Q売上高



%表記は前年同期比増減率

重点機種



その他



重点機種売上高
前年同期比 +6億円/ +2%

348億円

- LCは過去最高を更新
- 中国ロックダウンの影響を除くと、前年同期比10%台前半の成長

その他売上高
前年同期比 ▲1億円/ ▲0%

270億円

- コロナ関連製品：国内感染者数減により減少
- 試験機：国内の輸送機や教育機関向けに増加

アフターマーケット比率
前年同期比 +1pt (売上高+8億円)

39%

- 新型コロナウイルス検出試薬キットが減少
- 消耗品やサービスが好調に推移

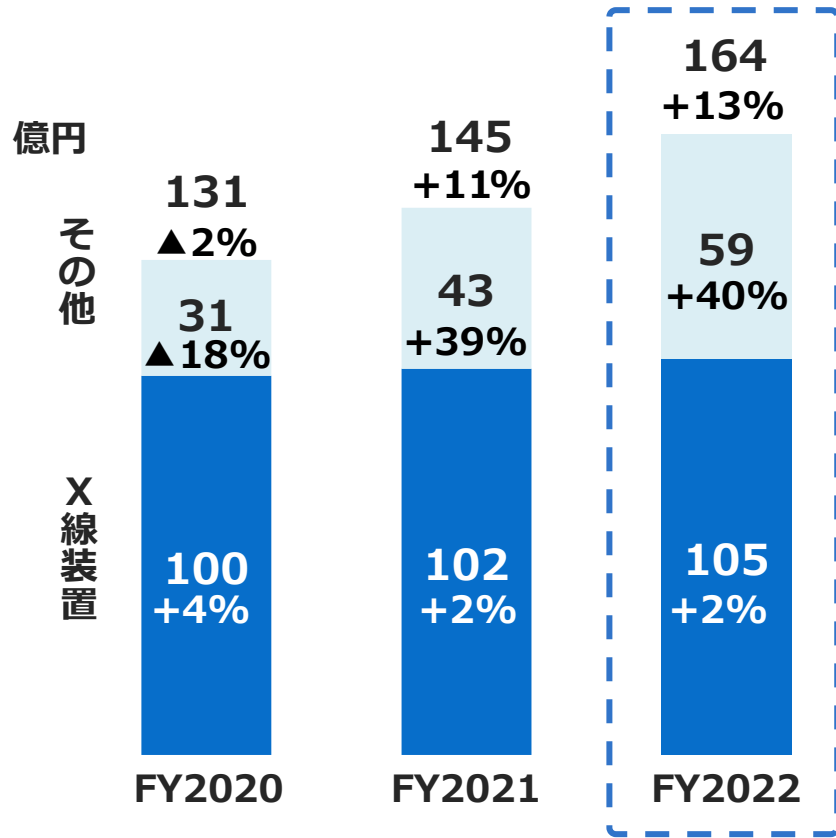
計測機器/地域別売上高

- ・国内：MSを中心に重点機種が増加。コロナ関連製品は減少
- ・海外：欧州・その他のアジアでは重点機種（LC、MS）が堅調に推移。一方、中国ではロックダウンの影響を受け、北米では重点機種や新型コロナウイルス検出試薬キットの減少により減収

単位 億円	FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比			概況
				増減額	増減率	増減率 (除為替影響)	
日本	171	216	209	▲6	▲3%	▲3%	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い、コロナ関連製品が減少 ・ヘルスケア分野向けにLC・MSや、化学向けにGCが増加 ・輸送機や教育機関向けに試験機が増加
北米	54	73	71	▲1	▲2%	▲16%	<ul style="list-style-type: none"> ・重点機種の手顧客向け売上が減少 ・新型コロナウイルス検出試薬キットや臨床向けMSが減少 ・医薬市場向け受注高は前年同期比+10%台半ば(為替影響除く)
欧州	49	63	71	+8	+13%	+8%	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床向けに、LCやMSが増加し、ロシア・ウクライナ情勢による減少を補った
中国	137	169	145	▲24	▲14%	▲28%	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックダウンの影響を除けば、売上高は10%台前半増
その他の アジア	51	65	89	+24	+37%	+20%	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬向けの需要が拡大したことや、前年のロックダウンの反動により、LCやMSが好調に推移

医用機器/機種別売上高・アフターマーケット比率

1Q売上高



%表記は前年同期比増減率

X線装置



X線TVシステム
FLEXAVISIONF4



一般撮影システム
RADspeedPro



血管撮影システム
Trinias



回診用X線撮影装置

その他



放射線治療用動体追跡システム SyncTrax



TOF-PET装置
BresTome

X線装置売上高
前年同期比 +3億円/ +2%

105億円

- 医療機関の設備投資が回復し、X線TVや血管撮影システムが増加
- 半導体等の部品・部材不足や中国ロックダウンが売上に影響

その他売上高
前年同期比 +17億円/ +40%

59億円

- 放射線治療用動体追跡システム等が増加

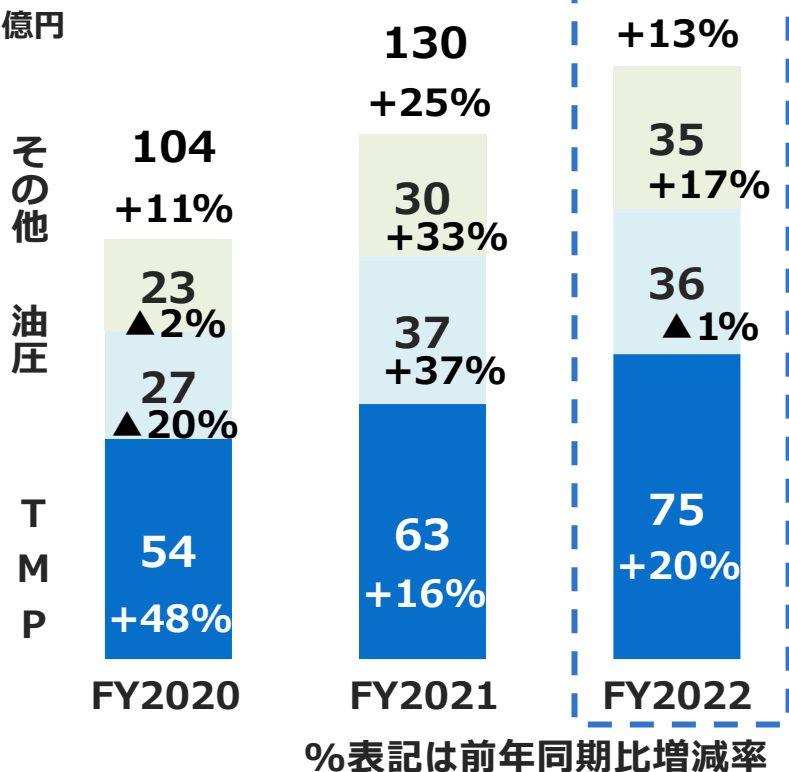
アフターマーケット比率
前年同期比▲2pt (売上高+4億円)

36%

- アフターマーケット売上高は拡大
- 製品売上高が伸長し、比率は減少

産業機器/機種別売上高・TMPアフターマーケット比率

1Q売上高



ターボ分子ポンプ (TMP)

電源一体型 電源別置型

油圧機器

ギヤポンプ コントロールバルブ

その他

工業炉 ガラスワインダー

バランスー

TMP売上高
前年同期比
+12億円/+20%

75億円

TMP
アフターマーケット比率
前年同期比▲2pt
(売上高+1億円)

15%

- 半導体製造装置向けが好調を維持
- 建材ガラス・薄膜太陽電池製造装置向けも拡大
- アフターマーケット売上は増加したが比率は減少

油圧機器売上高
前年同期比 ▲0億円/ ▲1%

36億円

- フォークリフト、小型建機、農機等向けは好調
- 日本の特装車両向けは停滞

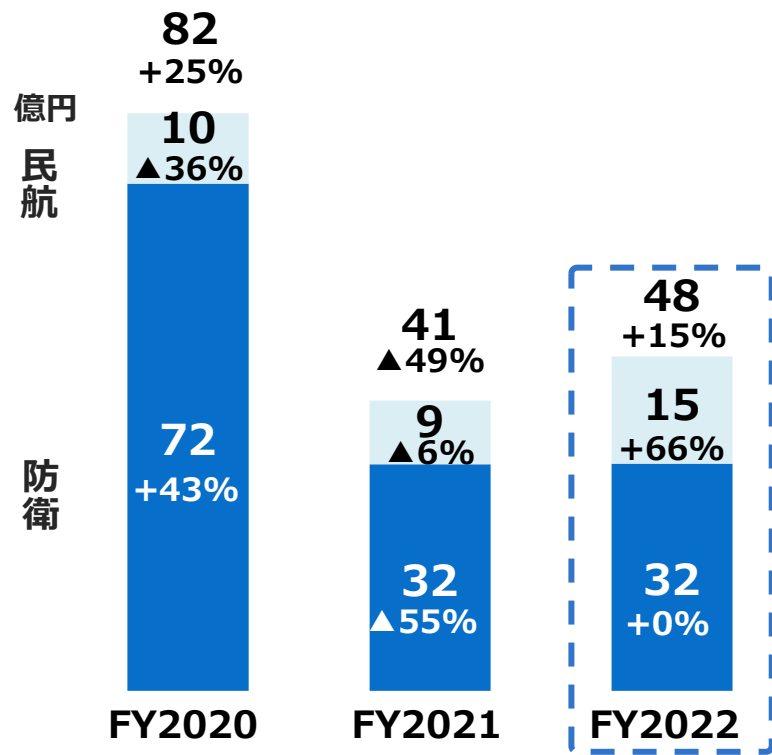
その他売上高
前年同期比 +5億円/ +17%

35億円

- 中国の設備投資増によりガラスワインダーや工業炉が増加

航空機器/分野別売上高

1Q売上高



%表記は前年同期比増減率

防衛

エアマネジメントシステム

コックピットディスプレイシステム

防衛分野売上高

前年同期比 +0億円/ +0%

32億円

- 修理案件が減少したものの、航空機用搭載機器が増加

民間航空機

パワー・ドライブ・ユニット・ギヤボックス

コントロール・バルブ・モジュール

スタビライザ・トリム・アクチュエータ

アンクル・ギヤボックス

フラップ・アクチュエータ

民間航空機分野売上高

前年同期比 +6億円/ +66%

15億円

- 旅客需要が回復し、中小型機向けの搭載機器に加え、補用品等のアフターマーケット事業が増加

03 2022年度通期業績予想

事業環境

第1四半期の評価

- ・中国ロックダウン、海外在庫増への為替影響、想定以上の部品・部材不足による生産遅延及び価格高騰を除けば、第1四半期の業績はほぼ計画通り
- ・受注高は前年同期比+10%台後半（為替影響を除き+10%台前半）

第2四半期以降の見通し

- ・売上の原資となる受注残は2022年3月末から約25%増
- ・ヘルスケア分野を中心に需要拡大を見込む
- ・部品・部材不足による生産遅延及び価格高騰が継続

通期業績予想達成に向けた取り組み

- ・計測：新製品（Nexera XS inert, LCMS-2050, LCMS-9050等）の拡販
- ・医用：回復基調にある設備投資需要への対応と、アフターマーケット事業の強化
- ・産業：半導体製造装置向けTMPのシェア拡大
- ・航空：回復基調にある民間航空機向け需要の取り込み
- ・全社：部品・部材不足による生産遅延については、グローバルでの部品手配、設計変更等を進め、業績への影響を最小化

通期業績予想（期初予想から変更なし）

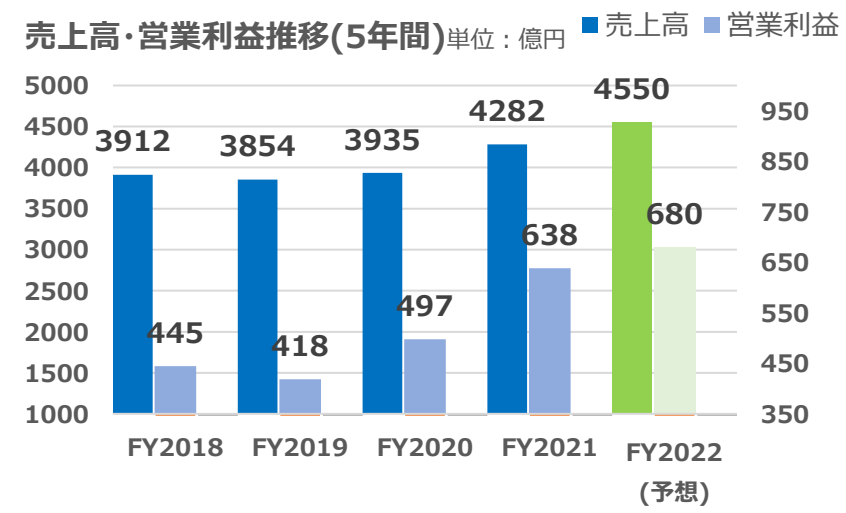
売上高、営業利益ともに3期連続で過去最高の更新を目指す

売上高
 前期比：+268億円/ +6%
4,550億円

営業利益
 前期比：+42億円/ +7%
680億円

営業利益率
 前期比：+0.0pt
14.9%

	単位：億円	通期			前期比	
		FY2020	FY2021	FY2022 予想	増減額	増減率
業績	売上高	3,935	4,282	4,550	+268	+6%
	営業利益	497	638	680	+42	+7%
	営業利益率	12.6%	14.9%	14.9%	+0.0pt	
	経常利益	484	656	680	+24	+4%
	親会社株主に帰属する当期純利益	361	473	490	+17	+4%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	106.11	112.43	115.00	+2.57	+2%
	ユーロ(円)	123.75	130.60	130.00	▲0.60	▲0%
	研究開発費	157	163	190	+27	
	設備投資額	145	164	240	+76	



減価償却費
170億円

為替感応度

米ドル
 売上高：12億円
 営業利益：4億円

ユーロ
 売上高：2億円
 営業利益：0.7億円

通期セグメント別業績予想

計測機器：増収増益

売上高 : +5%
 営業利益 : +7%
 営業利益率 : +0.3pt

医用機器：増収減益

売上高 : +9%
 営業利益 : ▲6%
 営業利益率 : ▲1.3pt

産業機器：増収増益

売上高 : +11%
 営業利益 : +20%
 営業利益率 : +0.9pt

航空機器：増収増益

売上高 : +1%
 営業利益 : +2%
 営業利益率 : 横ばい

- 医薬向け市場の需要は強い
- 欧米市場への取り組みを強化
- 新製品を拡販
- 設計変更等で生産遅延を最小化

- 医療機関の設備投資回復
- 新製品を拡販
- アフターマーケット事業を拡大
- 設計変更等で生産遅延を最小化

- TMP需要増により生産体制強化
- サービス拠点を拡充し、TMPアフターマーケット事業強化

- 民間航空機向け需要は回復基調
- アフターマーケット需要を取り込み、採算性改善を図る

単位: 億円	売上高					営業利益					営業利益率			
	FY2020	FY2021	FY2022	前期比		FY2020	FY2021	FY2022	前期比		FY2020	FY2021	FY2022	前期比増減
				増減額	増減率				増減額	増減率				
計測機器	2,486	2,775	2,920	+145	+5%	418	530	565	+35	+7%	16.8%	19.1%	19.3%	+0.3pt
医用機器	669	669	730	+61	+9%	50	61	57	▲4	▲6%	7.5%	9.1%	7.8%	▲1.3pt
産業機器	451	567	630	+63	+11%	34	60	72	+12	+20%	7.4%	10.5%	11.4%	+0.9pt
航空機器	286	223	225	+2	+1%	9	1	1	+0	+2%	3.1%	0.5%	0.5%	+0.0pt
その他	44	47	45	▲2	▲5%	10	13	14	+1	+11%	16.2%	18.1%	21.2%	+3.0pt
調整額	-	-	-	-	-	▲23	▲26	▲29	▲3	-	-	-	-	-
合計	3,935	4,282	4,550	+268	+6%	497	638	680	+42	+7%	12.6%	14.9%	14.9%	+0.0pt



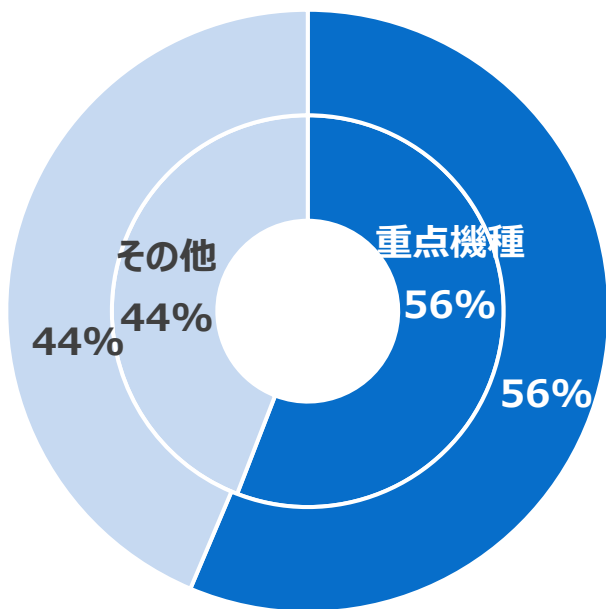
本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673 E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

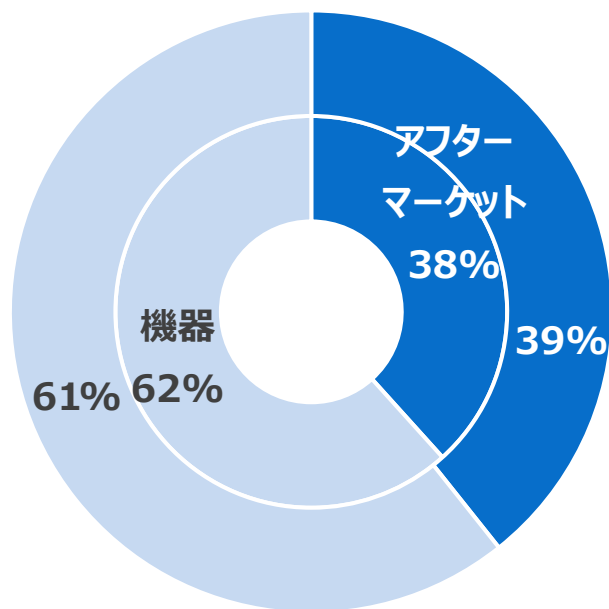
補足資料

計測機器/各種売上高構成比率

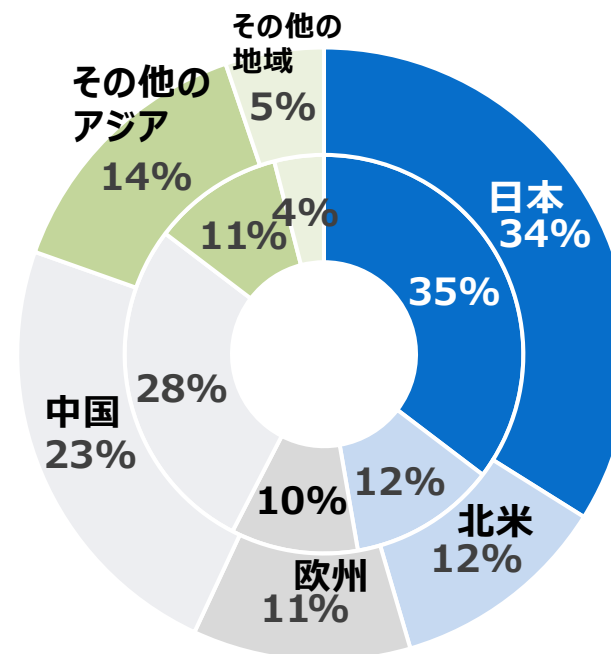
機種別



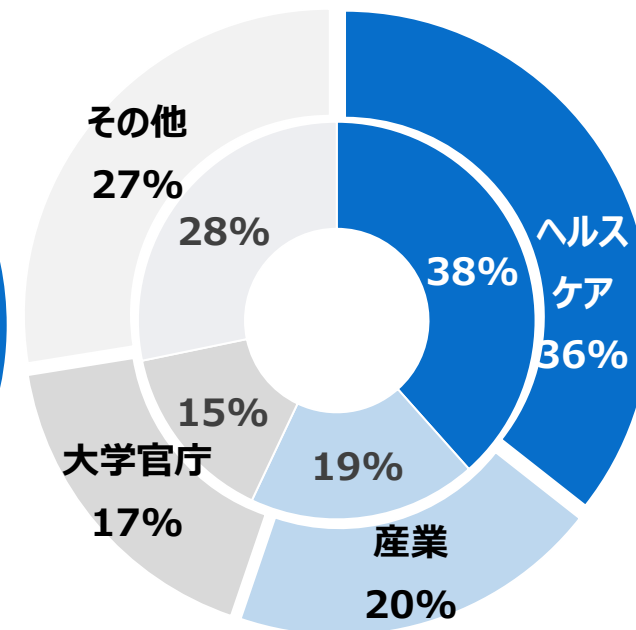
機器/アフターマーケット



地域別



市場別



※円グラフ外側はFY2022実績、内側はFY2021実績を示す

計測機器/重点機種売上高前年同期比

	FY2020					FY2021					FY2022
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
重点機種	▲5%	+2%	+11%	+22%	+8%	+20%	+7%	+4%	▲3%	+6%	▲9%
全体	▲7%	▲4%	+10%	+19%	+5%	+25%	+9%	+4%	▲0%	+8%	▲8%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

※FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較
FY2021, FY2022は為替影響を除外

計測機器/地域別売上高前年同期比

国	FY2020					FY2021					FY2022
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	▲11%	▲15%	+15%	+11%	+1%	+26%	+12%	+4%	+3%	+9%	▲3%
北米	▲4%	+13%	▲8%	+5%	+1%	+31%	+7%	▲7%	+0%	+7%	▲16%
欧州	▲5%	▲5%	+5%	+11%	+2%	+15%	+11%	+4%	▲4%	+5%	+8%
中国	+12%	+14%	+18%	+74%	+25%	+22%	+5%	▲0%	▲12%	+4%	▲28%
その他のアジア	▲25%	▲9%	+5%	+25%	▲2%	+22%	+6%	+10%	+6%	+10%	+20%
インド	▲35%	▲4%	+4%	+22%	▲3%	+2%	▲0%	▲3%	+3%	+0%	+27%

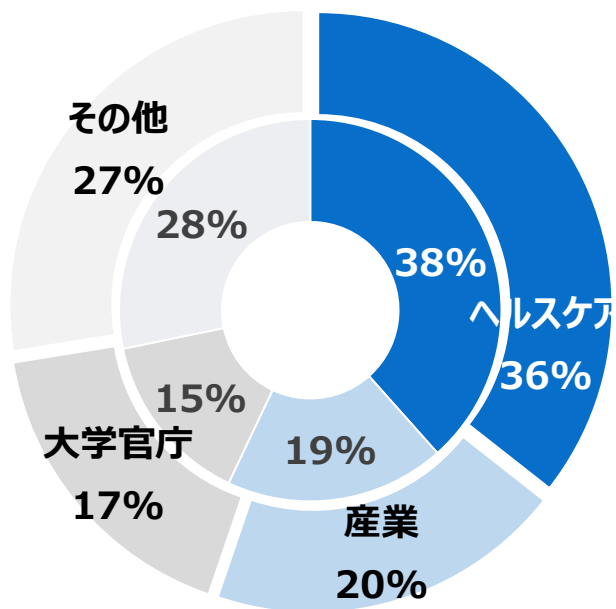
・FY2022 1Qにおいて、中国ではロックダウン影響を受け、北米では重点機種や新型コロナウイルス検出試薬キットの減少により減収

※インドはその他アジアの内数

※FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較
FY2021, FY2022は為替影響を除外

計測機器/市場別売上高比率 (1Q)

市場別売上構成比

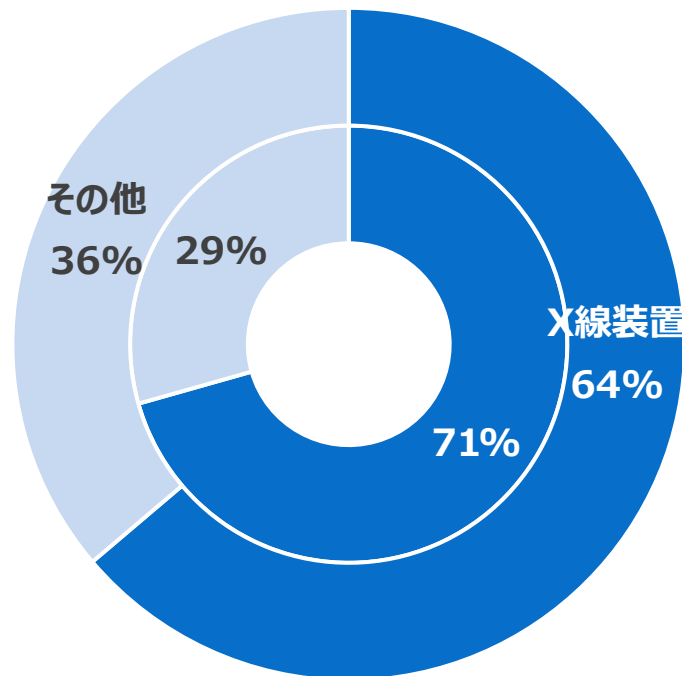


市場と主な業界	構成比		売上高 前年同期比	概況
	FY2021	FY2022		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	38%	36%	▲7%	・中国ロックダウン影響に加え、コロナ関連製品が減少
産業関連 ●化学・素材 ●電機 ●自動車	19%	20%	+6%	・グローバルで回復傾向 ・輸送機向けに試験機が増加
大学・官公庁	15%	17%	+17%	・コロナ禍から回復基調 ・大学、官公庁向けともに、10%台真ん中から後半の成長率。 重点機種はLC、MS、GC、全てでプラス成長

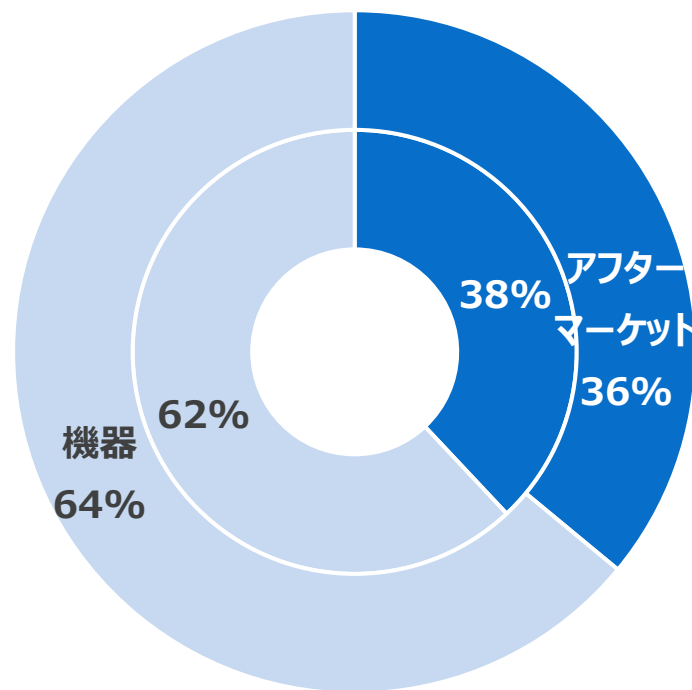
※円グラフ外側はFY2022実績、内側はFY2021実績を示す

医用機器/各種売上高構成比率

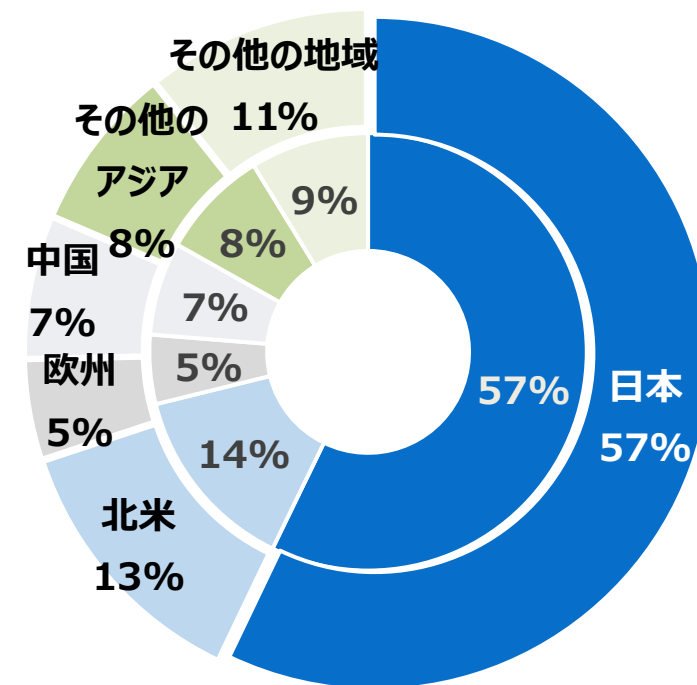
機種別



機器/アフターマーケット



地域別



※円グラフ外側はFY2022実績、内側はFY2021実績を示す

医用機器/地域別売上高（1Q）

単位 億円	FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比			概況
				増減額	増減率	増減率 (除為替影響)	
日本	67	83	94	+11	+13%	+13%	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の設備投資が回復し、血管撮影システムが増加 ・放射線治療用動体追跡システムが増加
海外	64	62	70	+8	+14%	▲0%	<ul style="list-style-type: none"> ・中国はロックダウン影響を受けたものの、他地域ではコロナ前の経済活動まで回復 ・アフターマーケット事業が回復基調
北米	20	20	21	+1	+4%	▲12%	<ul style="list-style-type: none"> ・一般撮影システムが減少 ・近接用FPD透視撮影システムが増加
欧州	8	7	8	+0	+5%	+0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア・ウクライナ向けは減少したものの、一般撮影装置システムが増加
中国	13	10	11	+1	+12%	▲6%	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックダウンや部品・部材不足の影響を受けた ・前年における設備投資停滞の反動により、血管撮影システムや一般撮影システムが増加
その他の アジア	10	12	13	+1	+10%	▲2%	<ul style="list-style-type: none"> ・前年増加した回診用X線撮影装置の反動減 ・東南アジアでX線TVシステム、インドで血管撮影システムが増加

医用機器/地域別売上高前年同期比

国	FY2020					FY2021					FY2022
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	▲15%	▲33%	▲1%	+7%	▲12%	+24%	+8%	▲10%	▲3%	+3%	+13%
北米	+14%	+29%	+26%	+1%	+16%	+2%	▲19%	+2%	+5%	▲3%	▲12%
欧州	+19%	+30%	+51%	▲3%	+27%	▲21%	▲42%	▲36%	▲14%	▲31%	+0%
中国	+34%	▲33%	+29%	▲25%	▲7%	▲27%	▲1%	▲18%	▲18%	▲16%	▲6%
その他アジア	▲9%	+17%	▲4%	+20%	+6%	+15%	+5%	+18%	▲28%	▲0%	▲2%

※FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較
FY2021, FY2022は為替影響を除外

産業機器/機種別売上高前年同期比

	FY2020					FY2021					FY2022
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
TMP	+46%	+36%	+7%	+9%	+21%	+13%	+35%	+44%	+22%	+28%	+11%
油圧	▲19%	▲17%	+7%	+6%	▲6%	+34%	+34%	+18%	+3%	+21%	▲6%
その他	▲7%	▲20%	+14%	▲16%	▲8%	+32%	+30%	▲6%	+14%	+15%	+7%

※FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較
FY2021, FY2022は為替影響を除外

アフターマーケット（AM）比率

計測	FY2020					FY2021					FY2022
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
AM売上高前年同期比	+1%	+4%	+12%	+22%	+10%	+33%	+16%	+4%	+6%	+13%	▲6%
AM比率	37%	33%	35%	33%	34%	38%	35%	35%	35%	36%	39%

医用	FY2020					FY2021					FY2022
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
AM売上高前年同期比	+1%	▲8%	+14%	+5%	+3%	+14%	+9%	+2%	+1%	+6%	▲2%
AM比率	37%	32%	32%	31%	33%	38%	35%	39%	32%	36%	36%

TMP	FY2020					FY2021					FY2022
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
AM売上高前年同期比	+12%	+3%	+11%	+6%	+8%	+18%	+11%	+15%	+5%	+12%	▲1%
AM比率	17%	21%	19%	18%	19%	17%	17%	15%	15%	16%	15%

※FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較
FY2021, FY2022は為替影響を除外